

妙高保護司会報 第42号

令和6年3月1日発行



「斐太歴史の里 カタクリ白花」保護司 坂田 斉 撮影



新しい時代と、人と人

新潟保護観察所 上越駐在官事務所
保護観察官 小川 美菜子

令和5年4月から、新潟保護観察所上越駐在官事務所に配属されました、保護観察官の小川と申します。令和6年は、1月1日の能登半島大地震から始まり、航空機事故、進化する生成AI、世界的紛争の拡大など、困難な幕開けとなりました。たださえ少子高齢化である上に、今後、人間の一部の仕事が人工知能に取って代わられる可能性があるとのこと、未来に不安を感じる人も多いと思われます。そのような時代にあって、人間の3つの力、コミュニケーション（人と心を通わせる）、クリエイティブ（創造力）、ホスピタリティ（思いやり）を要する仕事は、当面、AIに代わられることはないとのことであり、甘んじることなく、末永く養い、大切にしていきたいものです。

保護観察所では、保護司の先生方を始めとする、更生保護関係諸団体の皆様とともに、犯罪や非行をした人達の改善更生を支援し、地域の皆様が、安心・安全に生活できる社会の実現を目指しています。罪を犯した人達が更生して地域社会に戻り、健全な社会人として再起するには、地域社会の皆様のご協力が必要となります。環境や人に対する思いやりの心、人とのつながりを大切にする心、地域の課題に新たな視点から取り組む創造性豊かな志、そうした豊かな心が集まる地域社会こそが、新しい時代に山積する、様々な困難や課題を乗り越え、生き残り、一人一人の幸せな人生を生み出す礎となるものと確信しております。人類は、互いに意思疎通を図り、協力し合うことで、繁栄してきました。豊かな地域社会の実現に向けて、今後とも、皆様方のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

**犯罪や非行を防止し
立ち直りを支える地域の力**

第73回 “社会を明るくする運動” 作文コンテスト

特別賞（新潟県推進委員会賞）

自分を大切に

上越市立直江津東中学校 2年

間島 莉亜

近年自分で命を絶ってしまうというニュースをよく耳にする。自分がよく知らない芸能人でもこのようなニュースを聞くと悲しくなる。コロナ禍になって「死」にふれる機会が増えたと感じることが多い。つい昨日までいたのに人の命はいとも簡単に消えてなくなってしまう。人の死が増えているのと同じく、「いじめ」の割合も近年増加の傾向にある。いじめがおきる原因として、加害者がストレスをためこみそれを他人をはげぐちとして利用してしまうというのが多い。でも被害者の方も他人のストレスを浴びせられては自分もストレスがたまってしまう。そのストレスを自分まで家族などにつよくあたってしまう。まるで負の連鎖だ。いじめをとめるためには周りの大人がにげ道をつくってあげたり、気持ちが楽になるようなことをしてあげればいい。そんなふうと思う。

でも私はイジメはなくならないと思う。それは人それぞれに「正義」があり、それが対りつすることもあると思うからだ。でも私たち人間はそれを理解できず相手をこうげきしてしまうことがある。本当はそれではいけないのに。

今の時代、私達はSNSなどを通じて多くの人とかかわることができる。しかし、それは生きにくさの種をまくとも言える。私達は生きるうえで人とのつながりが必要不可欠だが、つながり方を間違え、生きにくさを相手におしつけてはいけない。自分の毒を相手にはきだすのは、相だんして

いるのではなく、イジメと同じことだと私は思う。人はとてもはかなくすぐきえてしまう。それをふせぐために周りの人がいる。相だんにのってくれる人がいる。その人たちにもっとスポットライトをあててほしい。コールセンターの人は電話で相手の話を聞き、悩みを軽くしてくれるという意味では、相談者にとって勇者と言える。私達はふだん生きているだけではその勇者の人たちを知ることにはできない。今の現状では困っている人全員には届かないと思う。でもこの勇者には私たちでもなれる。困っている人がいたら声をかける。自分でSNSを使って発しんする。それだけでも私はすごい力になると思う。でも一番大切なのは、イジメないことやひぼうちゅうしょうをしないことだと私は思う。人にこうげきするのは、自分を大切にしないのと同じことだと思う。相手を生きにくくしているだけではなく、自分の人生の道を歩きにくく生きにくくしているのだと思う。自分の道を生きやすくするか、生きにくくするかそれは自分しだい。言葉はときに大きなバケモノになる。でもそのバケモノは自分にかえてくる。その社会に私たちは生きている。きのうまで元気だった知人が次の日にはいないかもしれない。だから私達はおたがいを知り分かりあう必要がある。だからこれからの社会は、やっとなをかなえた有名人や学生が自分の生きにくさに負けないような社会にしたい。

新井更生保護女性会
令和5年度の活動

令和5年度、たくさんの実践の一部をご紹介します。



4/25 春の総会
「NPO 法人あいあう」代表理事 平出 京子様の講話



更女の日（6月）
「NPO 法人あいあう」活動への協力

妙高地区保護司会の研修



第2期研修会(8/25)
テーマ「専門的処遇プログラム」



第3期研修会(11/30)
テーマ「障害を有する対象者や
高齢対象者に対する処遇について」

保護観察・環境調整の現状

(R5.11.1現在の件数)

保護区	保護観察	環境調整
妙高	2	2
全保護区合計	219	370

令和5年度 更生保護表彰

◇更生保護法人
全国保護司連盟
理事長表彰

尾崎 秀行
(保護司)



◇関東地方更生保護委員会委員長表彰

・今井 敦子(保護司)

◇関東地方保護司連盟会長表彰

・望月 正樹(保護司)

◇新潟保護観察所長感謝状

・阿部キクエ・保坂 圭子

・池田 光枝・阿部タミエ

・清水カズ子(更生保護女性会)

◇新潟県保護司会連合会長表彰

・金井 妙・横尾シズエ(保護司)

◇新潟県更生保護女性連盟会長表彰

・白川 道子・横山美代子

・永井 敏子(更生保護女性会)

◇関東地方更生保護委員会委員長感謝状

・池田 俊子(更生保護女性会)

◇関東地方更生保護女性連盟会長表彰

・岩澤 惇子(更生保護女性会)

(敬称略)



10/4 新潟県更生保護女性の集い
長岡リリックホールにて



更女の日(7月)
手縫い雑巾作成・老人施設へ寄贈



更女の日(9月)【みんなと一緒に身体を動かしましょう】
講師 さつきスポーツクラブ指導者 石田 雅子様



更女の日(11月)【認知症のこと知りたい(共に生きる編)】
講師 新潟県立看護大准教授 原 等子様

アシカ親方(協力雇用者)紹介

仕事を通して
生きるチカラを
つけようね!

協力雇用主
アシカ親方



共に仕事に励む仲間として

(株) 樽澤組 代表取締役 樽澤 秀久

④ 私は、妙高市南部地区で建設業を営んでおります。協力雇用主会へは、前会長様より熱心に薦めて頂いた事をきっかけに入会致しましたが、それ以前に、弊社従業員の親戚で保護観察中の方がおり、縁あって会社の従業員として勤めて頂いた事がありました。前職は外仕事とは全く関係がない職種に従事されていましたが、厳しい環境下での作業も前向きに取り組み、親戚の従業員の熱心な指導も功を奏し、徐々に仕事を覚えながら、必要な関連作業主任者の受講にも参加する等、普通に生活をしていた頃の自分を取り戻すかのように、一生懸命にがんばっている姿が今でも忘れずに思い出されます。仕事を通じて本人と関わり感じた事ですが、自分が最も大切にしていた家族への強い謝罪の念が彼を前に進ませる力になったのかと思っております。人様を更生させる事は並大抵ではありませんが、同じ仕事をする仲間として適切な距離感を持ち、気持ちを少しずつでも共感する事が出来れば、改善していくための手助けになるような気がします。難しい事と思いますが、この経験を繋げていければと考えています。

退任のあいさつ

退任によせて

鈴木 幸則



不安な気持ちでお引き受けし16年、77才で無事に退任を迎えることが出来ました。就任当初は、報告書も手書きで複写式でした。最近はパソコンが主流。サポセン当番では、企画調整保護司の皆様はパソコン入力のフォローをしていただき、大変感謝しております。対象者が更生し、懸命に仕事をする姿を見た時には、安堵し、嬉しく感じたものです。最後に、犯罪のない明るい妙高市となりますよう、関係者皆様方のご活躍を祈念申し上げます。

保護司活動から得たもの

おかげさまで

横尾 シズエ

以前より、人前に出ると必要以上に緊張してしまうのでいつか克服できたらと願っていました。社会に出て様々な方と接していくうちに素直に自分を表現することで、人と関わることに勇気ももらい会話を楽しめるようになりました。保護司の活動では、悩んだり戸惑ったりしつつも自分は無力であることを超えて問題の解決に向けて、相手のことばに耳を傾け一緒に考えていこうと歩んできました。その中で気付きや振り返りの機会に恵まれたことが今では宝です。

役に立つチャンス

渡辺 伸一

「人の役に立つ発明をしたい」NHKのBSで再放送中の朝ドラ『まんぷく』の中で立花萬平は力強く言い放つ。実に魅力的な人物だ。だからこそインスタントラーメンという大発明が生まれたのだろう。人の命には限りがある。だれしも生きている間に、人の役に立ちたいと願うのは自然な気持ちだろう。保護司は私にチャンスを与えてくれた。微力ながら犯罪や非行をした人の立ち直りの役に立てれば、私にとっては何よりである。

編集後記

十二支の中で唯一、空想の生き物である辰。多くの人々の夢をのせて、天に昇る勢いで世の中を明るくしてくれるのでは…と期待した矢先の惨事。暖かい部屋でぬくぬくしていることさえ申し訳なく思う年明けだった。困難の中にあって、人の思いやりほど励みになるものはない。今、自分にできることから、先ずは行動したい。